

病院報告の概況

(1) 在院患者延数

令和3年中の京都市内の病院における在院患者延数は5,228,800人で、前年に比べ267,623人(4.9%)減少した。年次推移をみると、昭和45年以降増加を続けていた在院患者延数は、平成元年をピークに減少傾向に転じ、ここ数年は減少を繰り返している。なお、全国では前年より2.2%の減少となっている。

病床の種類別では、精神病床が6.1%、結核病床が65.1%、その他の病床が5.1%減少する一方、新型コロナウイルス感染症の影響により感染症病床は201.7%増加した(図1-1)(図1-2)。

※ 新型コロナウイルス感染症患者については、感染症病床以外の病床に入院していたとしても、「感染症病床」の患者として計上している。(令和2年9月4日厚生労働省事務連絡)

図1-1 一日平均在院患者数(人口10万対)の年次推移
(精神、結核、その他)

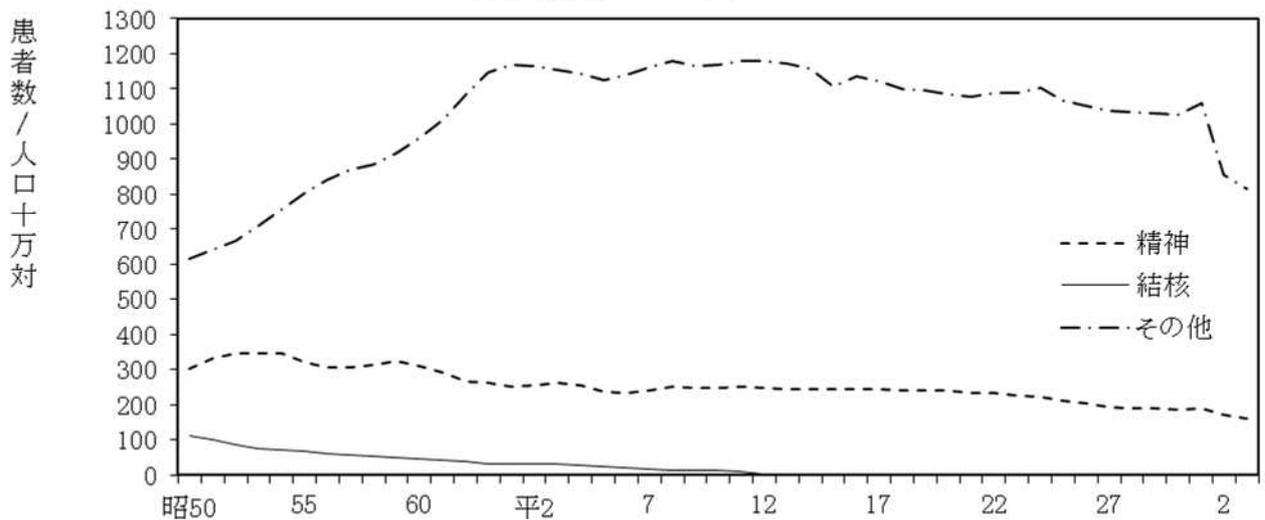
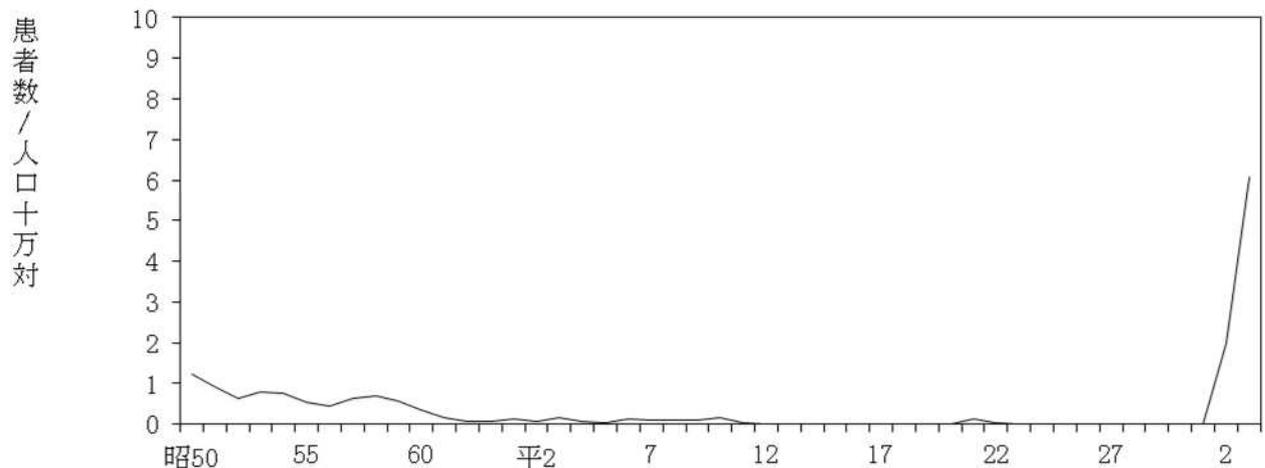


図1-2 一日平均在院患者数(人口10万対)の年次推移
(感染症)



(2) 新入院・退院患者数

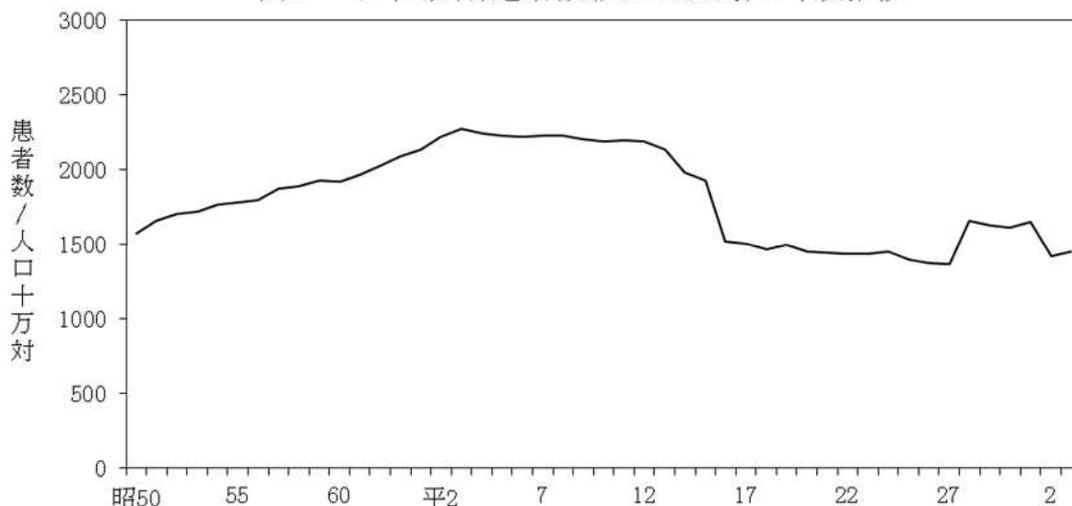
令和3年中の京都市内の病院における新入院患者数は217,740人で、前年より0.3%減少（全国0.7%増加）した。また、退院患者数は217,905人で、前年より1.3%減少（全国0.4%増加）した。

一日平均では、新入院患者数が597人、退院患者数が597人であった。

(3) 外来患者数

令和3年中の京都市内の病院における外来患者数は6,273,453人（一日平均17,188人）で、前年より1.3%増加（全国3.9%増加）している（図2）。

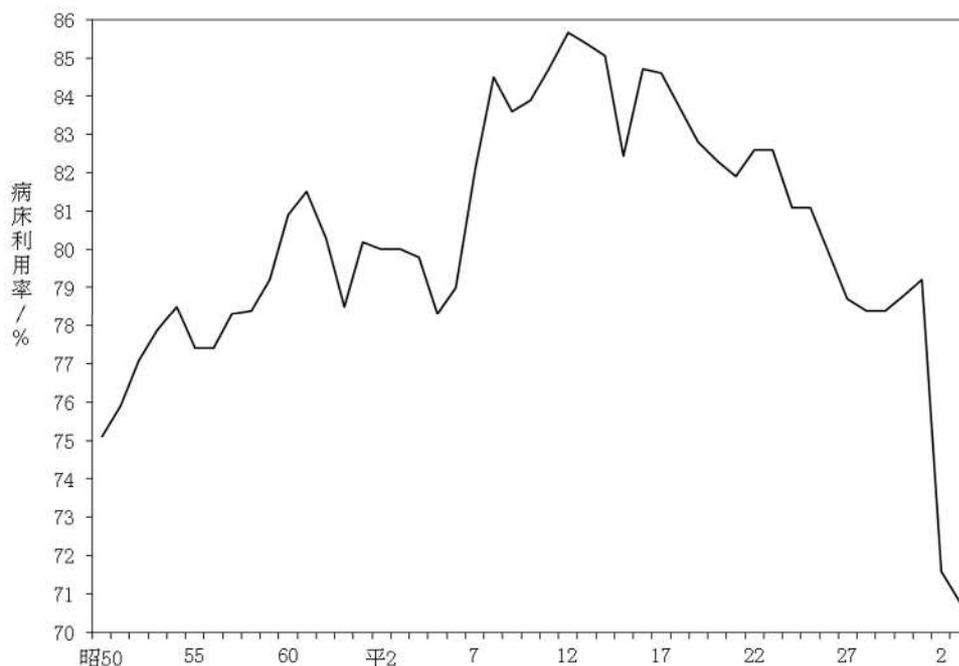
図2 一日平均外来患者数(人口10万対)の年次推移



(4) 病床利用率

令和3年中の京都市内の病院における病床利用率は70.8%（全国76.1%）で、前年から減少となった（図3）。

図3 病床利用率の年次推移



病床の種類別では、前年に比べて精神病床は4.2ポイント減少し、結核病床は1.3ポイント減少し、感染症病床は738.9ポイント増加し、その他の病床は0.4ポイント減少した（図4-1）（図4-2）。

図4-1 病床種類別病床利用率の年次推移
（精神病床、結核病床、その他病床）

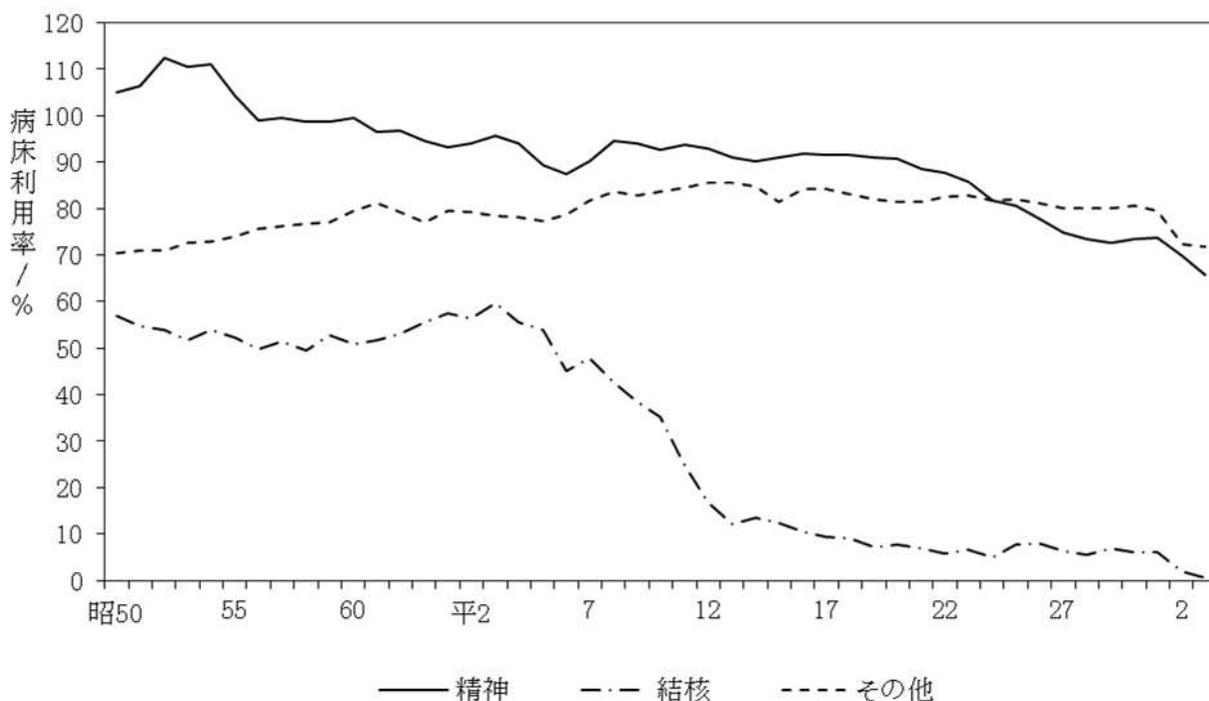
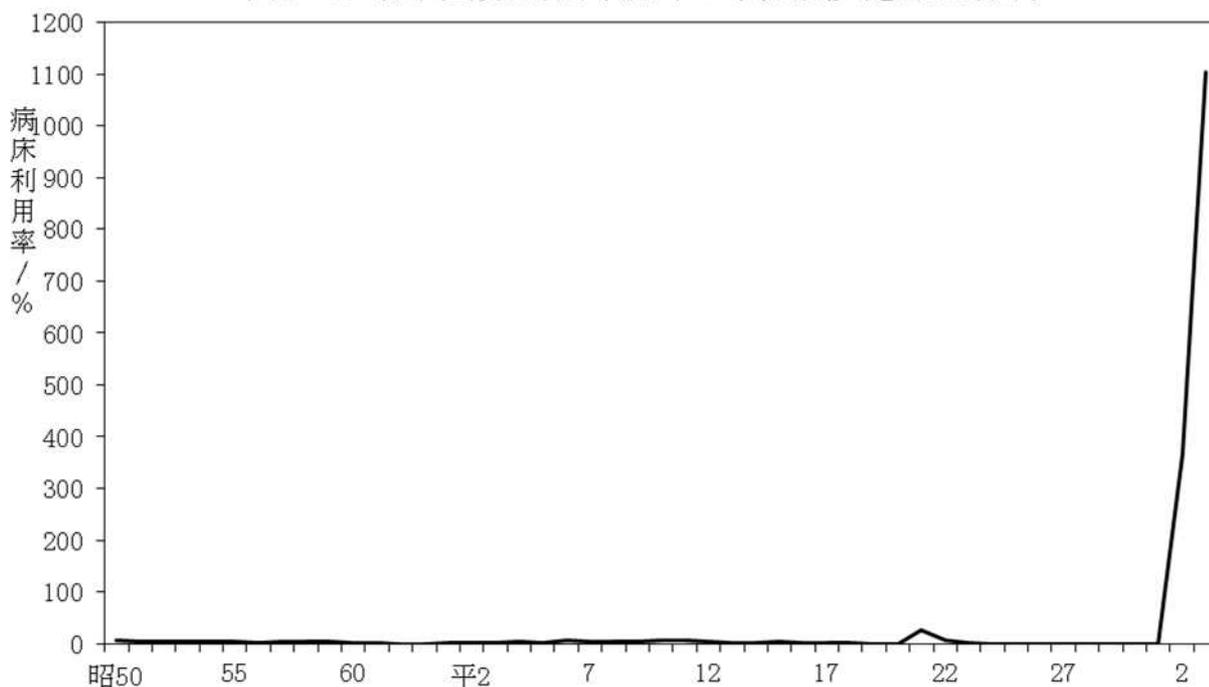


図4-2 病床種類別病床利用率の年次推移(感染症病床)



(5) 平均在院日数

令和3年中の京都市内の病院における平均在院日数は24.0日（全国27.5日）で、前年より1日短くなっている。年次推移では、平成元年までは長くなる傾向にあったが、平成2年以降は、短くなる傾向にある。（図5）。

病床の種類別では、精神病床が313.3日（全国275.1日）、結核病床が2.3日（全国51.3日）、感染症病床が12.6日（全国10.1日）となっている（図6）。

図5 平均在院日数の年次推移

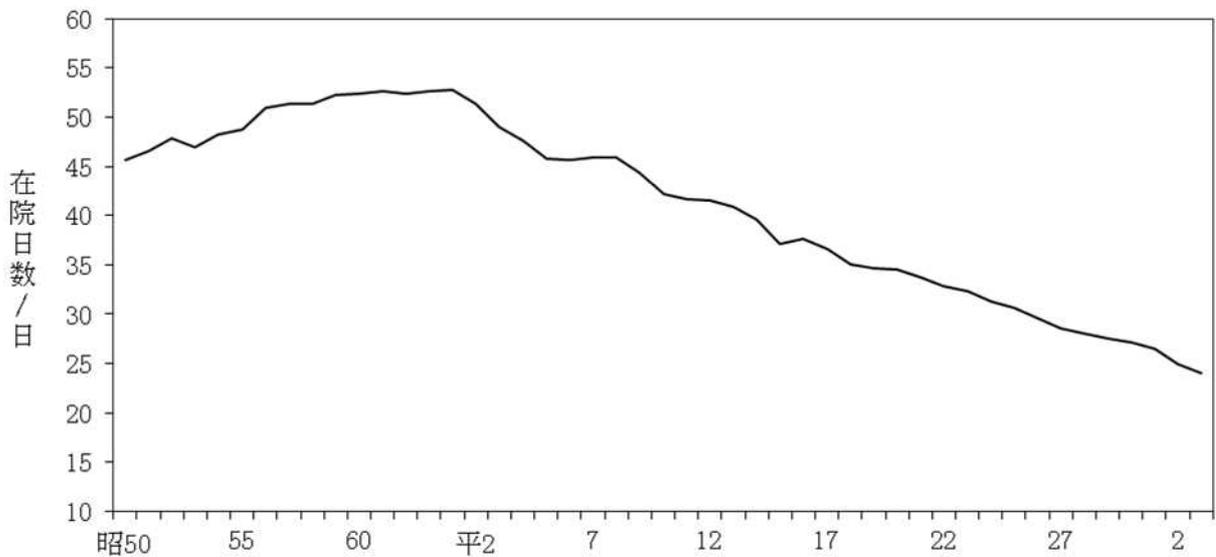


図6 病床種類別平均在院日数の年次推移

